

平野 広行 議員 政新会



問 第2次弥富市総合計画の進路は

答 健全な財政運営には問題ない

第2次弥富市総合計画の

事業を進めるにあたり財政の健全度について以下を問う。

問 新庁舎、ＪＲ・名鉄自由通路事業、下水道事業、公共施設再配置事業等を行うにあたり最大となる市債残高と将来負担比率は。

答 総務部長 地方債残高は最大で約230億円から231億円の見込み。将来負担比率は120%から130%程度と想定。

問 市債の元利償還金の最

高額と実質公債費比率は。

答 公債費は令和10年度に約17億2400万円でピークとなる。実質公債費比率は8%程度。

問 これらの数値は財政の健全化に関する判断比率の基準を満たしているか。

答 健全な財政運営を行うのに問題のある数値ではない。

問 公共下水道事業につ

ては多額の費用と時間を要し、財政を圧迫すると思われが今後の進め方を問う。

答 建設部長 「弥富市経営戦略の見直し」の中で、市街地の整備計画が5年より数年延びる案も検討する予定。

問 ＪＲ・名鉄弥富駅自由通路事業は

答 一大事業であり進めていきたい

新庁舎も完成し次なる取り組みはＪＲ・名鉄弥富駅自由通路事業であり、その方向性について以下を問う。

問 今後の事業の進め方は。

答 建設部長 令和3年3月末に事業合意の覚書締結予定。

・3年度に工事協定締結予定。
・5年度に工事着手予定。
・8年度に供用開始予定。

問 事業を進めるにあたり財政上の問題はないか。

答 市長 財政上問題ない。

副市長 持続可能なまちとして発展していくことを念頭に取り組む。

総務部長 問題ない。

財政課長 問題ない。

問 この事業は単に鉄道によって分断された南北の往来を便利にするだけではなく、将来の駅前開発に繋がる事業でなくてはならない。この事業の意義について市長の考えは。

答 市長 ＪＲ・名鉄弥富駅自由通路事業を起爆剤として、駅周辺の整備をしていくのが、これからの責務。



▲第2次弥富市総合計画